

## 子ども読書推進のための様々な取組

### 実践 あいら幼稚園 絵本の会

#### 1 はじめに

あいら幼稚園絵本の会は、今から 27 年前の昭和 63 年に一人の保護者が、わらべ歌や指遊びを取り入れながら子どもたちに絵本の楽しさ、素晴らしさを知ってもらい、更に絵本に親しんでもらおうと読み聞かせを始めたことがきっかけで発足した。

一人、また一人と「子どもたちの為に何かやりたい。」というメンバーが増えていき、今では 19 人の保護者が活動している。読み聞かせはもちろんだが、それ以外でも絵本の会の出番を幼稚園から提供していただき、一年を通して充実した活動ができています。

#### 2 活動内容

あいら幼稚園では、月 2 回水曜日に読み聞かせを行っている。

日程調整を行い、各回 4 人ずつ割り振り、一人一冊ずつお勧めの絵本を読む。前回と同じ絵本を選ばないように毎回ノートに記録を残しているが、そのノートも今では 10 冊以上になった。

幼稚園の活動の中でも、担任の先生が毎日帰りの会や毎月のお誕生日会の場でペーパースーツをしてくださったり、大型絵本などを読んでくださったりするので、子どもたちはお話が大好きである。

クリスマス会、8 月・3 月のお誕生日会では、絵本の会が 20 分程時間をいただき、出し物をしている。クリスマス会は、季節や行事、子どもたちの間で流行っているものなどを取り入れた出し物が出来るように話し合いから始まり、約 2 か月前から毎週 2 時間ずつ練習を行っている。大型絵本を手作りしたり、人形劇をしたり、歌を歌ったり、その都度内容を変えて楽しい時間を届けられるよう心掛けている。



【クリスマス会の練習】

人形劇をした時は、演者・背景係・ナレーター等の役割分担を決め、更に子どもたちからどの様に見えるのかも確認した。大人であればわかる表現でも、子どもたちには難しい場合もある。気が付いたことはその都度意見を出し合い、本番に向けて全員で取り組むことで、絵本の会自体も団結力が増して楽しく活動できた。出し物の練習は大変だが、子どもたちが楽しんでくれるだけで自然と力が湧いてくる。

### 3 絵本の会としての役割

月2回の読み聞かせが主な活動だが、それだけでは子どもたちが本に興味を持つかどうかは分からない。会員が読んだ絵本がよほど気に入れば、自分から手に取ってくれるだろう。しかし、この繰り返しだけではすぐに本への興味が薄れていく子どももいるかもしれない。先に取り上げたクリスマス会やお誕生会などのイベントでも、ただ真面目にお話を読むだけでは、季節を感じてワクワク・ドキドキしてもらうことは難しいかと思う。



#### 【読み聞かせの練習】

読み聞かせの日に幼稚園に行くと「君のお母さん。今日は何を読むの？」と子どもたちがキラキラした笑顔で話し掛けてくれる。本に興味を持ってもらう為には、まずは読み手に興味を持ってもらうことも大切だと思う。絵本の会のメンバーの中には、「君のお母さんがクリスマス会で出し物をしたよ。ママはやらないの？」と、我が子に背中を押されて会員になった方もいる。いつもは外で遊んでいる子どもでも、自分のお母さんが幼稚園に来て友達の前で絵本を読むとなると、外には行かずに部屋で母親の到着を待っている。子どもたちからどのように思われているのか聞いたことはないが、部屋で待っていてくれたり、急いで外から帰って来てくれたりする姿は、会員の活力にもなっている。

『絵本の会から子どもたちに向けて読み聞かせや出し物をする。それを見た子どもたちが自分の母親に絵本の会を勧める。会員になった母親が本を読みに来る幼稚園に来ることが楽しみになる。家庭でも自分から読んでもらいたい本を選んでくる。』

このサイクルが続けば、本を好きになる子どもが増えていくのではないだろうか。幼稚園の保護者が行っていることなので本に関しては素人だが、親だから伝えられることもあるのではないかと信じて活動を続けていきたいと思う。

### 4 終わりに

園児の中にも、「一人で本を読むことが好き。」という子どもはいるが、お母さんやお父さんの膝に座って絵本を読んでもらうと、楽しい場면을共有できる。

『親が子どもに本を読んであげる。親の真似をして上の子が下の子に本を読んであげる。本を読んでもらうことが好きになる。少しずつ自分でも本を読んでみようという興味を持つ。』

絵本の会で目指しているサイクルが家庭でも実践されると、自然と子どもたちが本を手にとってみようと思ってくれるのではないかと思う。子どもたちは、お母さん・お父さんに本を読んでもらうことが大好きだ。少しの時間でいいので、子どもを膝に抱いてまずは、簡単なものから読んであげてみてはどうだろうか。